
クリスマスはしょっぱい

大林秋斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスはしょっぱい

【Nコード】

N7910Z

【作者名】

大林秋斗

【あらすじ】

クリスマスはしょっぱい思い出が先にくる。

父とのクリスマスの思い出。サイトからの転載です。

クリスマスはしょっぱい思い出が先にくる。

サンタがおとうちゃんいうの知ったん、早かったんよ。

幼稚園年長組の時、クマが主人公のアニメがあった。

うちはそのぬいぐるみが欲しかった。

だから、その年のサンタさんからのプレゼントはクマのぬいぐるみを願った。

でも、うちが欲しかったアニメキャラのクマやなくて、偽物が枕元に置いてあった。

鼻の位置が目と同じ高さについて顔つぶれて見えてかわいくない。

「これ違う」って文句言ってたなら、

おとうちゃんは、「サンタさん間違えたんか？ でもこれもかわい
いやろ？」って言った。

うちはそれに返事せんかった。

小学校2年の時、妹が生まれた。

赤ちゃんって小さくて柔らかくてかわいい。

うちも夢中になった。

学校帰ってきたら、ベビーベッド行って妹の顔見る。

たいてい眠ってたけど、たまに起きてる時もある、うちの目をじ
っと見返してた。

その冬から、サンタさんのプレゼント、「何かの物」から「お菓子入りの靴」に変わった。

家族が増えた分、サンタさんのお財布も経費削減なんやな。

それからサンタさんのプレゼント忘れ事件が起こった。

うちが小6、妹4才の時や。

「すまん、売れきれてて、いつもの用意できてないんや」

そんなことをおとうちゃん、

夜10時すぎの寝入りっぱな起こされて話されても困る。

分かってても、クリスマスの朝に、枕元にプレゼントないのは寂しかった。

けれど26日朝にお菓子の靴が置いてあった。

ふーん、どっかに残ってたんやな。

そう思いながら、妹とお菓子をひとつひとつゆっくり食べたん覚えてる。

おとうちゃんサンタからプレゼントなくなったの高校卒業の年やった。

もう、「お菓子の靴うれしい」と思う年なんかとくにすぎてる。

中学生の時にやめてくれても良かったんよ。

でも妹がいたから続いていた。

妹の方もわたしと同じように高校卒業までやるという。

変なところに真面目なんやから。

「ごめんな、もうないからな」って、妹のいない所ですまなそうに頭下げた。

「ええで、全然気にしてないし」って苦笑いしながら言ってたっけな、うち。

それから大学に行き彼氏できた。

初めて家に連れてきたのは2人目の彼氏。

おとうちゃんも彼氏も会ったときは緊張してたな。

なんか2人とも緊張しすぎて普段あまり聞かない丁寧語で話してた。それうちも移ってしまっただけのようにおとうちゃんや彼氏相手に「です」「ます」って話してもうた。

体に力はいってたみたい。

その彼氏と2人でクリスマスをおすごした。

それから以後、クリスマスのは家とは違う所で過ごすのが決まりとなった。

彼氏と一緒に5度目のクリスマス、鮮明に覚えている。

会社勤めして1人暮らしを始めた彼氏のマンションのリビングで、2人きりの手作りのディナーしている時だった。

うちのバッグから携帯の音が鳴った。

こんな時に誰やねん、と思いつつ手に取ると、おかあちゃんからやっただ。

「もう、いったい何？」ってうちが不機嫌になっても仕方がないやろう？

そうしたらおかあちゃん、切羽詰まった声で「病院来て」言うんや。

うちは急いだ。

彼氏が車乗せてくれて一緒に病院まで行った。

信号を待つ時間も気がせってどうしようもなかった。

病院に着くと、腕に点滴の管を繋いだおとうちゃんがベッドに座ってた。

「おお、来てくれたんか」とにっと笑う。

なんや緊急入院、手術せなあかんはずの人やのに、全然元気やん。拍子抜けしたわたしにおとうちゃんは言う。

「すまん、癌言うても初期やし。でも家族呼べと医者がうるさくてな」

がははとまた笑った。

うちらもつられて笑ったけど、病室出てから、おとうちゃん抜きの面談室で聞いた医者の話は深刻だった。

余命8か月。

癌が大腸から肝臓、肺に飛んでいて、癌は切除不能。

手術はストーマー（人工肛門）つけるだけのもの。

おとうちゃん、笑ってたやん。

どこが病気やの？　って見た目だけでは分からないのに……。

うちは笑顔作れる自信なかった。

けれど妹が泣き出してしまったので、おかあちゃんと一緒に宥めた。初期やと信じてるおとうちゃんに疑われてしまう。

病室戻っておとうちゃんと軽口言ってから、家に帰ることにした。

彼氏もわたしとすこす予定にしてたからとわたしの家に泊まることになった。

重苦しい空気の中、布団に横たわったまま寝つけないでいると、彼氏はぎゅっと抱きしめてくれていた。

1週間後、おとうちゃんは手術した。

術後は順調、8か月と言われた余命だったけど、1年半、生きてくれた。

その間にうちは彼氏と結婚した。

式はしなかった。

グアムに行って写真撮ってきただけ。

「今の子の結婚で愛想ないなあ」

おとうちゃん呆れ顔で言ってたけど、しょうないやん。

結婚した時、まだおとうちゃん体動けてた時やから式場借りてもありやったかもやけど、お金なかったし借金したくなかったし。

結婚して初めてのクリスマスは実家ですごした。

久々ちゃうの？ 家族勢揃いしたん。

もう、この時にはおとうちゃん、だいぶ弱ってた。

立ったり歩いたり、日常生活はなんとかいける、けど、休めがいる。ふらつくのだそう。

そういえば実家でクリスマスツリー飾ったの初めて見たんちゃうやろか。

クリスマスは「お菓子の靴」とケーキ食べるだけのイメージやったけど、結婚式せんかったわたしへのプレゼントとか。

でも、このおっきなツリー新居に持って帰っても置き場所困るやんか、おとうちゃん。

クリスマスツリーの前で記念写真携帯でばし撮った。

その画像見返すと、おとうちゃん、ずいぶん痩せたなって思った。

おとうちゃんは、忘れんぼで嘘つきや。

妹が高校卒業するまでサンタ続ける言うてたんちゃうかったの？

おとうちゃん、ツリー見える？

今年もまた出したんやで、このおっきいツリー。

もう、まじで迷惑、なんで小さいのにせんかったの？
リビングの場所取ってるの分かるやろ？
子供は喜んでるけどね。

妹も高校卒業して彼氏おるみたい。

考えたらサンタなんて不要やん、年的には十分。
約束守れなくても安心したかな、おとうちゃん。

おとうちゃん、二人目がお腹の中おるんやで。

うちの2代目サンタさんにも、「お菓子の靴」のプレゼント継いで
もらってる。

うちとも経費削減考えて、最初から「お菓子の靴」なんやけどね。

はは、クリスマスはやっぱりしょっぱいわ。

なんやかんや言いながら、おとうちゃんサンタと同じことしてるも
ん。

いつかのうちみたいに、今度は自分の子供から文句言われそや。

おとうちゃんは、ずっとおるもんや思ってた。

ありがとう言えばよかったな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7910z/>

クリスマスはしょっぱい

2011年12月25日14時52分発行